

Title	泌尿器科領域における鎮痙鎮痛剤CG-201単味剤の使用経験
Author(s)	友吉, 唯夫; 原田, 卓
Citation	泌尿器科紀要 (1968), 14(11): 845-847
Issue Date	1968-11
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/119933">http://hdl.handle.net/2433/119933</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

# 泌尿器科領域における鎮痙鎮痛剤 CG-201 単味剤の使用経験

京都大学医学部泌尿器科学教室 (主任: 加藤篤二教授)

友 吉 唯 夫  
原 田 卓

## CLINICAL USE OF CG-201 (ACABEL), A NEW SPASMOLYTIC, IN UROLOGY

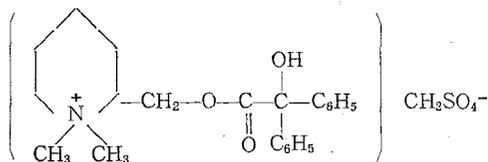
Tadao TOMOYOSHI and Taku HARADA

*From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University  
(Chairman: Prof. T. Katō, M. D.)*

CG-201, a new antispasmodic as well as analgesic, was administered to thirty-three patients having pain mainly due to urolithiasis. Twenty-two patients responded well. Six patients complained of thirst, but this side effect disappeared quickly after discontinuing the drug.

西独 Grünenthal A. G. 社において Acabel の名称で開発され、本邦でも大日本製薬株式会社によって研究開発されている新鎮痙鎮痛剤 piribenzil-methylsulfate (CG-201) についてわれわれもその臨床的応用を試みる機会を得たのでその結果を報告する。

今回大日本製薬より提供を受けた薬剤は単味製剤で1錠中 piribenzil-methylsulfate 50mg 含有黄色糖衣錠および1アンプル中 5mg 含有の注射薬であって、後者は静脈内投与も可能である。本剤の構造式は下記のごとくで、水、エタノール、メタノールに易溶、ベンゼン、アセトン、エーテルに難溶である。



Benzilic acid (N,N-dimethyl-2-hydroxymethyl-piperidinium) ester.

薬理作用として、その構造式からも考えられるごとくアトロピンに類似し、副交感神経系に対する抑制効果が認められるという。

実験的にもヒスタミンによるラット腸管痙攣をアトロピン、ババベリン、と同様に抑制することが報告されている。したがって尿管平滑筋に対しても鎮痙的に作用するものと考えられる。尿路結石症に伴う痙攣発作に対して従来はヒヨステンブロマイド系薬剤が用いられることが多かったが、CG-201 も同様に疼痛の寛解、排石の促進に有用なることが期待できる。

### 投与対象および投与方法

1967年6月より1968年3月までの間に京大病院泌尿器科外来および入院患者より本剤の投与対象として適当と考えられた尿路結石症を主とする症例33例に本剤を投与した。

投与方法として、錠剤は原則として1日4錠食間に服用せしめ、7日間の投与を1単位としてその後の効果判定の基準とした。また注射剤は1回5mgを筋注するか、あるいは点滴静注に付加して投与した。

### 投与効果の判定

投与効果は何らかの自覚症状の改善および他覚的に結石の排石、あるいは結石の明確な下降の認められたものを有効とし、それ以外のものを無効とした。また投与中の副作用の発現には特に注意した。

### 投与成績

(1) Table 1 は 50mg 錠の結石症例に対する投与結果を示し、投与13例中5例に有効であった。投与症

Table 1 CG-201 錠 結石症例

No.	性	年齢	診 断	用 量	症状の変化	排 石	副 作 用	効 果
1	♀	20	左尿管結石	4tab×7日	痙痛発作軽快	(-)	(-)	(+)
2	♂	20	右尿管結石	"	変化みとめず	(-)	(-)	(-)
3	♂	25	左尿管結石	"	痙痛発作軽快	(-)	(-)	(+)
4	♀	19	両腎結石	"	変化みとめず	(-)	口渇あり	(-)
5	♂	49	両腎結石	"	"	(-)	(-)	(-)
6	♀	68	右尿管結石	"	"	(-)	(-)	(-)
7	♂	40	左尿管結石	"	痙痛軽快す	(-)	口渇あり	(+)
8	♀	25	"	"	変化みとめず	(-)	(-)	(-)
9	♀	14	"	"	"	(-)	(-)	(-)
10	♂	29	左腎結石	"	"	(-)	(-)	(-)
11	♂	25	"	"	"	(+)	口渇, 動悸	(+)
12	♀	25	右尿管結石	"	"	(-)	(-)	(-)
13	♂	32	左腎結石	"	"	(+)	(-)	(+)

例中副作用の発現したものの3例については休薬した期間もあった。

(2) 検査後疼痛および神経性頻尿に対する錠剤の投与結果を Table 2 に示した。6例中4例に有効であった。

(3) Table 3 は注射剤の結石症例に対する投与結果を示す。全症例が尿管結石症であり、9例中8例に何らかの投与効果が認められたが、特に本剤と5%糖液との併用投与例において結石の自排のみられるものが多かった。

Table 2 CG-201 錠 その他の症例

No.	性	年齢	診断または処置	用 量	症状の変化	備 考	効 果
1	♂	25	逆行性腎盂造影後	3tab×1日	疼痛消失す	extravasationあり	(+)
2	♀	59	"	3tab×1日	疼痛軽快	"	(+)
3	♂	25	左尿管狭窄	4tab×7日	変化みとめず	左水腎症あり	(-)
4	♂	47	神経性頻尿	3tab×9日	尿意頻数改善	"	(+)
5	♂	28	"	"	"	口渇あり	(+)
6	♀	40	"	"	変化みとめず	"	(-)

Table 3 CG-201 注 結石症例

No.	性	年齢	診 断	用 量	症状の変化	排 石	副 作 用	効 果
1	♂	36	右尿管結石	5mg i.v.×1日	痙痛発作軽快	(-)	口渇	(+)
2	♂	25	左尿管結石	"	"	(-)	(-)	(+)
3	♂	37	"	"	"	(-)	(-)	(+)
4	♀	68	右尿管結石	"	"	(-)	(-)	(+)
5	♂	28	左尿管結石	"	"	(-)	(-)	(+)
6	♂	24	右尿管結石	"	変化みとめず	(-)	(-)	(-)
7	♂	33	"	5mg+5%ブドウ糖 500cc ×7日	疼痛軽快	(+)	(-)	(+)
8	♀	57	"	"	"	(+)	(-)	(+)
9	♂	31	"	"	"	(+)	(-)	(+)

(4) Table 4 はその他の症例に対する注射剤の投与結果を示し、膀胱炎に伴う頻尿および動脈造影時の前投薬として本剤を使用した。いちおう全例に期待し

た効果が得られたものと思われる。

Table 5 は以上の結果をまとめたものである。-

Table 4 CG-201 注 その他の症例

No.	性	年齢	診断または処置	用量	症状の変化	備考	効果
1	♀	42	膀胱炎	5mg i.m.×1	尿意頻数改善		(+)
2	♂	65	〃	5mg i.v.×1	〃		(+)
3	♂	42	大動脈造影	5mg i.m.×1	頻脈, 口渇あり	Nobulon A, Urog.	(+)
4	♂	41	腎動脈造影	〃	特にみとめず	〃	(+)
5	♂	67	大動脈造影	〃	〃	〃	(+)

Urog.=76% Urografin.

Table 5

		結石群	その他	計
錠剤投与例	有効	5	4	9
	無効	8	2	10
注射剤投与例	有効	8	5	13
	無効	1	0	1
		22	11	33

副作用としては、口渇を訴えたもの6例、動悸を訴えたもの1例であった。

### 考 按

われわれは主に尿路結石症に対する本剤の投与効果を検討したが、CG-201の泌尿器科領域における適応を列記してみると、次のような項目が考えられる。

- 1) 尿路結石症の保存的療法
- 2) 泌尿器科検査後疼痛の寛解
- 3) 神経性頻尿
- 4) 術前の前投薬

とくに4)についてはアトロピンあるいはスコポラミンにその薬理作用が類似しているため

麻酔時のみならず泌尿器科処置を行なう際に迷走神経反射にもとづく諸症状をあらかじめ抑制できるものと考えられる。

以上のうち鎮痙作用が本剤の最も顕著な投与効果であるので尿路結石症に対して有効であるほか、膀胱利尿筋に対してもある程度の筋弛緩作用を有するものと思われる。われわれの経験においても、正常膀胱内圧を測定する際にCG-201を経静脈的に投与することによる最大意識圧の著明な低下を認めている。したがって前立腺肥大症あるいは尿道狭窄等による排尿困難を伴う症例に対して本剤を投与することは好ましくないものと考えられる。また副作用として口渇を訴えた症例が多いが、これは本剤投与にもなう薬理作用のひとつとして当然考えられることであり、副作用としてよいか一考を要するものと思われる。

### 結 語

結石症を主とした泌尿器科疾患33例に対してCG-201を投与した結果22例に有効であった。副作用として口渇を訴えたもの6例が認められたが投薬を中止することによってそれらの症状はすみやかに消失した。

(1968年9月4日特別掲載受付)